旭川地方隊友会　隊友会活動の説明と入会の案内

旭川地方隊友会（会長・椛村天臣）では、会勢拡大施策等の一環として、「定年退職予定者直前教育」及び「予備自衛官招集訓練」参加者に対して、事務局長から隊友会の現状と概要説明を実施し、入会促進と隊友会活動への理解・協力等を依頼している。

8月3日、第2師団管内の定年退職予定者49名に対し、8個支部の活動概要と入会要領を説明するとともに、隊友会の団体生命保険の幹事会社ジブラルタ生命の旭川支社から営業所長を招聘して隊友会保険のメリットについて説明した。

また、8月24日、予備自衛官招集訓練参加者62名に対し、隊友会の現状や大規模災害に派遣される隊員の留守家族支援事業について説明し、更なる支援・協力等を依頼した。（事務局長・山口正幸）

北海道隊友会連合会　第10回目の「定例勉強会」を開催

北海道隊友会連合会（会長・酒巻尚生、以下「道隊連」）は7月26日、今回で10回目となる「定例勉強会」を朝日生命札幌支社の協力を得て同支社会議室にて開催した。本勉強会は平成26年12月から開催し、概ね3～4カ月に1回の頻度で行い、講師は道隊連役員が実施してきていたが、節目である10回目の今回は講師に初めて現職隊員の第11旅団司令部広報室長の水留義郎3佐に依頼した。演題は「南スーダンPKOに参加して」であり、同PKOの活動に関する講話をいただいた。水留3佐（当時10普連3中隊長）は、平成26年6月から同年12月まで第2次南スーダン派遣施設隊本部第3係警備幹部として参加した。講話は、スライドを使用し分かりやすく、会員及び現職隊員の約20名は熱心に聴講した。（事務局長・牧野正美）

地域社会協力活動

青森県三八地域支部（支部長・小笠原治仁）は8月1日及び5・6日の3日間、三社大祭の中心となる八戸市庁前市民広場の清掃奉仕を実施した。観光協会では、観光客等に清潔なお祭りを楽しんでもらうため会場の清掃を計画し、支部は延べ36名が参加した。三社大祭は300年近い伝統を誇り、昨年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された青森県南最大の夏祭りであり、豪華絢爛な山車を一目見ようと多くの市民や観光客が会場を埋め尽くした。（事務局長・櫛部裕行）

岩手県岩鷲支部八幡平分会（分会長・上林正）は7月10日、分会長ほか6名が八幡平外来植物駆除キャンペーンに参加した。これは、八幡平市等の主催により、国立公園八幡平内のフランスギクほか帰化植物を駆除し、自然植生の保護を目的としたもの。当日は快晴の青空と新鮮な空気の下、他の協力団体とともに帰化植物の駆除に励み、心地良い汗をかいた。（事務局長・瀬川正雄）

宮城県柴田支部（支部長・柳澤正博）は7月31日、会員5名が船岡駐屯地曹友会28名と共同して、柴田町富沢地区の「むつみ学園」でボランティア活動を実施した。園内の除草、砂場の整備、藤棚の剪定などの作業にあたり、真夏日の中で汗をかきつつも午前中で無事作業を終了した。最後に園長先生からのねぎらいの言葉があり、曹友会員とともに爽やかな気持ちで園を後にした。（事務局長・小野寺俊恵）

砂場を整備する会員

山形県河北支部（支部長・後藤光一）は7月30日、町内の特別養護老人ホーム『眺葉園』の清掃奉仕活動を行った。14年目を迎えた今年は、23名の会員が参加し、施設内の草刈り、蜘蛛の巣払い、外窓の高圧洗浄機での洗浄を実施した。園の施設長から「今年も綺麗な環境で気持ちよく盆踊りができます。ありがとうございます」との感謝の言葉をいただいた。参加者一同満足感を得て、今後の奉仕活動の継続を申し合わせた。（事務局長・藤多喜代治）

医療支援（救護活動）

東京都医療支援部会（会長・白須一也）は7月29日から2日間、南相馬市において、福島復興の象徴と位置付けられる祭礼「相馬野馬追い」において救護活動を実施し、落馬による骨折をはじめ、18名の傷病者の救護にあたった。

8月5日から2日間、第42回富士登山駅伝競走大会において救護活動を実施した。

御殿場口登山道の太郎坊救護本部（標高1500m）から7合5尺目（標高3100m）にかけて、8名が展開し、計52名の傷病者に対応した。

終戦記念日の8月15日、日本赤十字社3名とボランティア女子大生2名を含む有志により靖国神社内宮及び参道に救護所を開設するとともに適宜境内を巡回して救護活動を実施した。（会長）

御殿場口の休憩所前に揃った医療支援部会会員

長崎県佐世保支部（支部長・江見雅博）は7月29日、佐世保市内の福祉施設「千草野学園」で、草刈り等のボランティア活動を実施した。これは、夏と冬の2回実施している恒例行事で、21名の会員が参加した。草刈りや樹木の剪定、施設の窓拭き等の作業を行い、施設から大いに感謝され、地元テレビでも紹介された。

また、8月4日、学園主催の「納涼夏祭り」に、運営ボランティアとして11名の会員が参加し、「金魚すくい」等の運営や、焼きそば等の調理・販売を手伝った。（事務局次長・早田徹也）

熱心に慣れた手つきで焼きそばを作る会員

自衛隊諸業務への支援

千歳地方島松支部（支部長・佐々木由紀雄）は7月15日、島松公民館において、島松駐屯地隊員と市民との交流・親睦及び益金寄付の慈善事業を目的として、第10回目の「チャリティービアパーティー」を開催した。40名の隊員、恵庭市長（恵庭市自衛隊協力会会長）、自衛隊を応援する市民約200人が参加し、生ビールを飲みながら親睦を深めた。最後に北部方面隊歌を市民と一緒に合唱し大盛会で終了。集まった益金を恵庭市社会福祉協議会に寄付した。（支部長）

函館地方北斗支部（支部長・水谷保）は8月5日、函館駐屯地で開催された「きっずアドベンチャー2017体験実習」を教育委員会、ロータリークラブ等とともに実行委員会の一員として実施した。隊友会は、現職隊員が担当する各課目（装甲車の試乗、救急法、登壁訓練、人命救助システム研修）に会員を配置し、安全管理の補佐、施設内での行動統制を主に実施した。（支部長）

山形県酒田飽海支部（支部長・本多秀之）は8月4日から4日間、酒田港における護衛艦「まつゆき」と掃海艇「のとじま」の艦艇広報支援を延べ45名の会員により実施した。

4日の入港歓迎式では、護衛艦「まつゆき」艦長櫻井哲久2佐に歓迎の言葉を添えて激励品を贈呈し、5、6日の一般公開では、来場者に飲料水等の提供を行った。家族連れが多数来場し、隊員や装備品に接し夏休みのプレゼントを楽しんだ。（支部長）

護衛艦「まつゆき」艦長に激励品を贈呈

群馬県前橋支部（支部長・井出三男）は8月13日、前橋市の利根川河川敷において、前日夜行われた「第61回前橋市花火大会」会場の清掃奉仕活動を実施した。厳しい暑さの中、熱中症に注意しながら特別会員を含む13名でごみ拾い等を行った。各人、ビール缶やペットボトル等のごみをビニール袋一杯に集め、きれいな河川敷を取り戻した。（会員・青木章）

東京都荒川支部（支部長・杉本洋平）は7月29日、東京消防庁杉並消防署阿佐ヶ谷出張所で「阿佐ヶ谷結索道場」に参加した。支部では防災支援活動に向けた会員の技能習得・向上の一環として本道場での研修を計画し、会員や会員家族など3名が参加した。災害時の避難・救助、物資搬送に有効な消防結索を訓練。最後に本道場の定める段位認定試験に挑戦し、初段試験は2分以内での各種結索であったが、全員が初段に合格できた。（支部長）

節結びを実演する小林孝子会員。結索の美しさが講師から評価された

東京都墨田支部（支部長・大桃丈知）は8月19日から2日間、地元有志によるイベント「第8回すみだストリートジャズフェスティバル」において、4年連続で東京地本江東出張所ブースの出展を支援し、募集広報に協力した。また、山本区長、楠見東京地本長が来場され、墨田区の特性を生かした募集広報活動について多くの意見交換を行った。今後も墨田区と自衛隊とのかけ橋として活動していく。（事務局長・細川かおる）

兵庫県姫路支部（支部長・三枝副三）は7月16日、「はりま海上自衛隊友の会」と潜水艦救難艦「ちはや」の姫路港入港歓迎式を実施し、「姫路お城の女王」の花束贈呈、姫路前山保育園園児による勇壮な太鼓演奏で歓迎した。

その後、艦内特別見学を行い、深海救難艇（DSRV）等、潜水艦救難艦独特の特殊装備を興味深く見学した。翌17日は、艦内一般公開が行われ、多数の市民が詰めかけた。夕刻、「ちはや」は次の任務に向け勇壮に出航した。（事務局長・古西真吾）

潜水艦救難艦「ちはや」装備の深海救難艇（DSRV）前での記念写真

長崎県佐世保支部（支部長・江見雅博）は7月10日、佐世保港倉島岸壁において、ソマリア沖・アデン湾へ海賊対処活動のため派遣される水上部隊第28次隊の護衛艦「あまぎり」（艦長・森2佐、乗員約220名）の出国行事に、多くの会員が参列し、無事に任務を完遂しての帰国を願った。

行事では、派遣部隊指揮官斎藤浩司1佐が出港報告を行い、乗員が整列、「軍艦マーチ」の演奏の中、関係者や隊員家族に見送られ出港した。（事務局次長・早田徹也）

「のぼり」を掲げ護衛艦「あまぎり」を見送る会員

大分県別府地区（会長・茅野寛治）は7月24日、初旬に発生した九州北部豪雨による行方不明者捜索のため、災害派遣で捜索活動を行い、同日帰隊した第41普通科連隊の出迎えを実施した。会長ほか9名の会員が「災害派遣お疲れ様です」の横断幕と隊友会の「のぼり」を掲げて出迎え、隊員からは、出迎えや慰問品（お茶）に対する感謝の声が上がった。（事務局長・米田大作）

災害派遣部隊を迎える会員

慰霊・顕彰等

帯広地方帯広西支部（支部長・高津紀正）、**同東支部**（支部長・宮内隆一）、**音更支部**（支部長・長谷川巌）、**幕別支部**（支部長・末盛真一）は6月11日、7月22日の両日、帯広市内の十勝護国神社の整備を実施した。22日は27名が参加、草刈り、樹木の剪定、清掃等に汗を流した。護国神社奉賛会の土谷正明整備部長は、「国を守るために命を奉げた御霊を祀るのは、いま生かされている我々の務め、これからも誠心誠意活動を続けていきたい」と話していた。（連合会理事・佐藤敏教）

十勝護国神社境内の樹木の剪定や清掃に汗を流す会員

帯広地方釧路支部（支部長・倉井俊勝）は7月9日、第27普連隊1科長を交えた10名により、22日に開催される釧路駐屯地殉職隊員追悼式に先立ち、霊園の整備を行った。異常気象のため釧路ではほとんどあり得ない30度超えの猛暑にも負けず、剪定・花植えなどに励んだ。3年継続して剪定していることから、樹木も整然とし、駐屯地司令等から感謝の言葉が寄せられた。（事務局次長・廣瀬安雄）

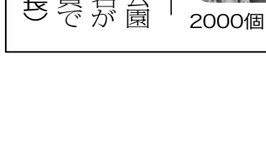
青森県東青支部（支部長・外崎美智幸）は、ねぶた祭りを目前に控えた7月30日、八甲田山の稜線（標高732m）に凜と立つ後藤伍長像周囲及び県道から銅像に通じる道路の清掃奉仕活動を行った。外崎支部長ほか10名の会員が参加し、明治35年1月厳冬の八甲田山踏破訓練中亡くなられた御霊に哀悼の意を捧げつつ清掃に汗を流した。（副支部長・小山田雅則）

後藤伍長像と清掃活動参加者

青森県中弘支部（支部長・三上知彦）は8月5日猛暑の中、弘前市戦没者慰霊祭に先立ち、弘前市忠霊塔及び併設する陸軍墓地の清掃奉仕を行った。今年は会員と家族24名のほか多くのボランティアが参加して102名の作業隊となり、瞬く間にきれいになった。弘前市忠霊塔は、日清戦争以来の戦死者20000余柱が祀られている。

8月15日、弘前公園にある青森縣護国神社で行なわれた弘前市戦没者慰霊祭を協賛し、会員25名が参加して29000余柱の戦没者の慰霊を行った。神事の後に、間山元喜会員が「八甲田雪中行軍～115年目の真実～」と題し講演を行った。（事務局長・永井達雄）

山形県鶴岡・田川支部（支部長・國分龍三）は8月1日、終戦記念日の8月15日を前に、日頃の感謝と慰霊を込めて、遺族会と合同で荘内神社敷地内にある鶴岡護国神社一帯の草刈り作業を実施した。年々遺族会の人数が高齢化に伴い減少していく中、隊友会の存在が重視されてきている。当日は、朝から小雨が降る中、雨に濡れながらの作業となったが、8月15日の護国神社における「慰霊と平和を願う集い」の開催に大きく貢献できた。（事務局長・高橋俊朗）



遺族会差し入れのおにぎりでひと休み

山形県山形支部（支部長・石澤政光）は8月14日、11名の会員により山形縣護国神社「英霊感謝祭（終戦記念祭）」に向けた神社参道の除草清掃を実施した。護国神社では、こま犬を10年ぶりに新調し、除幕式も行われることから、その周辺を特に入念に除草整備した。これにより、翌15日の「英霊感謝祭」が清新な環境で迎えられ、本祭と除幕式の円滑な斎行に貢献できた。（副支部長・西村彰雄）

護国神社入口を入念に整備

宮城県栗原支部（支部長・佐藤隆一）は8月2日、昭和31年に飛行訓練中に殉職した平塚一尉、竹内一尉の慰霊行事を実施した。接触事故で墜落した機体や遺体の収容に地元消防団が協力、その後地元有志らが慰霊碑を建立し、例年当支部が慰霊行事を実施してきた。今年は、50年ぶりに平塚一尉の遺族（甥・滋氏）が参列し黙祷を捧げた。ご遺族は、「慰霊は平塚家で唯一やり残したことだったのでほっとした。戻って親族に報告したい」と述べていた。（事務局長・椙目民義）

慰霊碑の前で50年ぶりに参加した遺族（中央）を囲む

宮城県東松島支部（支部長・山口恵三）は8月6日、松島基地近隣の寿昌院に建立された戦没者59柱を祀る慰霊塔の清掃、慰霊・顕彰を実施した。会員15名（女性1名含む）と、松島基地准曹会10名の参加を得て、慰霊塔周辺の除草のほか樹木の移植等を実施した後、住職の読経に合わせて戦没者の慰霊を顕彰した。今後とも本事業を継続していく予定である。（事務局長・遠藤俊彦）

住職の読経に合わせて慰霊

長野県安曇野支部（支部長・丸山英二）は8月12日、安曇野市の穂高神社で15日に行われる戦没者慰霊の「みたま祭り」に先立ち、同神社内にある穂高霊社の清掃奉仕を行った。

神社神職からは「今までこんなに綺麗になったのは見たことがない。ありがとうございました」と感謝の言葉があった。（支部長）

新潟県上越支部（支部長・鈴木春雄）は8月6日、上越市民の憩いの場として親しまれている高田公園の忠霊塔の清掃奉仕を実施し、施設の美化に貢献した。参加した会員30名の大半が現職当時演習場や射場等の整備作業を実施してきた大ベテラン揃いで、ここは昔取った杵柄とばかり進捗状況も極めて順調、予定の作業を早期に完了し追加作業にも取り掛かるほどであった。（広報担当・安樂久裕）

島根県斐川支部（支部長・須田幸春）は終戦記念日の8月15日、斐川公園内にある慰霊塔に会員7名で慰霊の祈りを捧げた。この慰霊塔には、日露戦争・大東亜戦争の戦没者665柱が祀られている。戦没者への哀悼の意を一層新たにし、この平和な日本が永続することを切に願った。（支部長）

忠霊塔周辺の除草作業

香川県善通寺支部（支部長・川田文敷）は7月29日から8月17日の間において、4日間延べ1333名の会員で香川縣護国神社の「万灯みたまつり」を支援した。護国神社は、明治維新以来、国家のために殉難した県出身の戦死者・自衛官・警察官・消防士等の公務殉職者を主祭神として、現在35800余柱を祀っている。8月13日から3日間、「御灯」を掲げ英霊を慰め、我が国の恒久平和を祈る祭典等が行われた。会員たちは万灯施設の構築・2000個近くの提灯の取り付け・撤収等の奉仕活動を実施した。（支部長）

2000個の提灯を取り付ける会員

愛媛県新居浜支部（支部長・伊藤正明）は8月8日、新居浜市滝宮公園内の戦没者慰霊塔の清掃を行った。台風一過の蒸し暑い中、支部有志9名が除草・清掃に汗を流し、お盆を迎える準備がすっかり整った。作業後、全員で戦没者を慰霊し、平和への祈願を行った。（支部長）